

回差点

遅い梅の花が香るころ、長野市のHさんという方から私の店に電話がありました。定

年退職後、念願の長崎旅行をされ、帰ったばかりとのことでした。長崎で被爆し、六年後に亡くなった永井隆博士ゆかりの場所を巡る旅で、如己

堂、永井記念館

では館長の永井

徳三郎さんと話

され、思いがけ

ず信州との縁を

耳にしたそうで

す。波田町には

祖父永井隆の絵

に加藤大道が彫

った版画を展示

したギャラリーがあるということ

実は記念館にも一九五〇年

「原子野の花」完成時に初代

大道が贈った版画が所蔵さ

れ、一九九〇年二代目大道の

摺(す)りで長崎国際文化会

八点を絵はがきにして永井記

念館に贈りました。Hさんが

手にしたのは、そのうちの一枚

だったのです。数日後、H

さんは絵はがきを持ってお見

えになりました。永井博士の

絵をご覧になり、感慨深いひ

心から心へ伝わる

館にも保存されております。

Hさんが帰るとき、徳三郎さ

んは絵はがきをくださり、私

の店を教えてくれたのだそう

です。

二年前、店で「原子野の花

展」を企画し、以来常設して

おります。その版画の中から

とときを過ごしてゆかれまし

た。

最近、長崎を旅行した知人

から、永井博士と加藤大道の

交流と版画のことを、バスの

イドさんが話してくださった

と聞きました。昨春秋に刊行

された『版画荘二代記―清貧

の版画家加藤大道の軌跡』も

記念館に届いています。今、

静かに、確かに、人の心から

人の心に伝わっていることを

うれしく思います。

五月一日は永井博士の命日

でした。広島原爆の五百倍の

放射能を今なお抱え続けるチ

エルノブイリ、あの忌まわし

い事故から二十年、原爆投下

から六十年が過ぎましたが、

遠いことでなく現実のことな

のです。版画に記された永井

博士の言葉です。「真理はひ

とつ、世界はひとつ」「平和

を」

(波田町、古畑博子、57歳)